

# F—12 家庭経済からみた人口移動の経済的ポテンシャル

お茶大家政 伊藤 秋子

1. 人口移動の経済的動因は生活水準の地域格差にあるとされている。ここでは家庭経済の見地から、都道府

県別人口1人当り消費支出総額から算出した人口移動の相対ポテンシャルを中心に、家庭の生活水準の地域格差と実際人口の移動率との関係を検証する。

2. 1. 人口移動の相対ポテンシャルは、総理府統計局、昭和34年及び39年、全国消費実態調査による都道府県別人口1人当り消費支出総額から求める。

2. 上記の相対ポテンシャル  $X_1$  と、エンゲル係数  $X_2$ 、第1次産業人口の割合  $X_3$ 、集中地区人口の割合  $X_4$ 、実際人口の純移動率  $X_5$ 、標準化出生率  $X_6$  との間の相関分析を行なう。

3. 1. 昭和34年における  $R^{21 \cdot 23456} = 0.911$

昭和39年における  $R^{21 \cdot 23456} = 0.852$

2. ここで用いた5個の要因のうちでは、エンゲル係数との負の偏相関関係が最も大であり、集中地区人口の割合および標準化出生率との負の偏相関がこれについている。